

R

レポート

Report.

第2回

東三河日本語スピーチコンテスト開催

去る1月22日（日）、東三河日本語スピーチコンテスト実行委員会と東三河5市の国際交流協会が主催する「第2回東三河日本語スピーチコンテスト」が、豊川市音羽文化ホールで開催されました。対象は東三河5市在住の外国人で、昨年各市で実施したスピーチコンテストなどから選ばれた外国人23名（豊橋市からは12名）が、日本の日常生活で感じたこと、将来の夢などを発表しました。



コンテスト出場者の皆さん

<入賞者（敬称略）>

【小中学生の部】

- 最優秀賞 平岩英二（蒲郡市立塩津小6年、ブラジル）
- 優秀賞 西坂ミッシェル（豊川市立代田中3年、ブラジル）
- 特別賞 雨宮マリア（豊橋市立羽根井小5年、ブラジル）
田窪明子（新城市立新城中1年、フィリピン）

【高校生以上一般の部】

- 最優秀賞 パク・ヨンウン※（豊橋市、愛知大学、韓国）
- 優秀賞 ナガミニ・レイカ（豊橋市、光ヶ丘女子高、ブラジル）
- 特別賞 乔銀燕（新城市、会社員、中国）
樊景秀（豊川市、実習生、中国）

※最優秀賞を受賞したパクさんのスピーチを以下に紹介

“私の大好きな三河弁を紹介します”

愛知大学 パク・ヨンウン

“今日休講だら？図書館におるもんで、授業終わったら図書館においでん？”だら、おる、もんで、こりん。3年前、初めて日本に来た私には聞いたこともなく、習ったこともない日本語でした。「だら」は「～でしょう」、「おる」は「いる」、「～もんで」は「～ので」、「おいでん」は「きてね」という意味のすべてが三河弁です。

三河弁は東海東山方言の一つとして西三河は「じゃん、だら、りん」東三河は「のん、ほい、だに」という言い回しで分類できます。「じゃん、だら、りん」の三つの語尾は三河弁を代表する表現と考えられており、まとめて「じゃんだらりん」と言われています。

「だら」は「～でしょう」という意味で「～だろ」の様な少し強めの雰囲気となります。しかし、少し後ろを伸ばして「だらあ」というと柔らかい表現になり、「これ、かわいいら～」のようにしばしば「だ」を省略することもあります。また、よく使われている「りん」、または「ん」は「食べりん、帰りん、おいでん」のように後ろに付けて軽い命令形としてよく使われています。特に「おいでん」は「来る」に「りん」をつけて「きん、きりん、またはこりん」と言ったりしますが、一般には「おいでん」が使われることが多いです。

この代表的な表現の中で最も知られており、私が三河

弁の中でも最も好きな表現である「じゃん、じゃんね」は「じゃないか、～なんだよね」という意味です。「じゃん」の場合、最近では共通語として定着していますが、元は中部地方で使われていた方言でした。しかし、「じゃんね」という表現は次の話の展開にもっていく一方的な説明によく使われていますが、全国的に通用しない表現なので、他の地域の人には不思議に感じられると思います。たとえ、友達から「ねえ～私昨日海に行って来たじゃんね～」と言われた時、私は「じゃんね」を相手の共感を得るために使う表現だと思いました。この表現になれるのにかなり時間がかかりましたが、今は私もよく使っている表現です。

最初この三河弁を聞いた時に不思議なところも多く、日本語が拙かった私には難しかったのですが、今は三河弁が大好きです。面白くて、話の流れもなめらかになるところも三河弁の魅力ですが、最も大きい魅力は人の心と心を近づける三河弁の力です。三河弁から伝わる情けや温もりは4年間の留学の中、私に小さな力になってくれました。まだ日が昇っていない朝、レジの向こうから缶コーヒーを渡しながら「朝からバイトで疲れるら？コーヒーでも飲みん」と言ったお婆さんの温かい一言は私の人生の中、忘れられない最も心温まる思い出になると思います。



ゆたかな地域社会
づくりに奉仕する



地元とともに――

理事長 竹田知史

蒲郡市元町5番8号

☎ <0533> 69-5311 (代)
<http://www.gamashin.co.jp/>

ありがとう!90年



おたくも うちも

豊橋信用金庫

豊橋市小畷町579番地 ☎ (0532) 52-0321 (代)

<http://www.toyo-shin.co.jp>